

柳田 仁著

『国際経営会計論 —ドイツならびにアメリカ・日本の比較研究』

(中央経済社・2006年)

神奈川大学経営学部教授 丹 野 勲

本書は、柳田教授の長年にわたる国際会計に関する研究をまとめた労作である。本書では、ドイツを中心とした経営会計について、アメリカ、日本とも比較しながら論じている。

目次は以下のようである。

- 第1章 原価計算の生成と発展
- 第2章 ドイツにおける原価計算の展開
- 第3章 ドイツにおける経営会計の現状と動向
- 第4章 アメリカにおける経営会計の展開
- 第5章 日本における経営会計の展開
- 第6章 その他諸国における経営会計
- 終章 独米日3か国の経営会計比較

第1章では、16世紀から20世紀前半までの、ドイツの原価計算論の展開について、歴史的視点より考察している。特に評者が興味を持ったのは、ドイツ資本主義の発展期である19世紀後半のドイツ資本主義の発展と会計との関連について詳細に考察している点である。その意味で、本章はヨーロッパ経営史という視点でも高い評価が出来るであろう。第2節では、近代原価計算論の先駆者である Schalenbach について、その人物、

業績に関して詳しく紹介している。彼の会計学のみならずドイツ経営学への貢献も含めて、詳細に論じている点はユニークである。

第2章では、ドイツにおける原価計算の展開について、理論的視点から考察している。本章では、ドイツを中心とする原価計算理論について、初学者にも分かりやすく概説している。

第3章では、ドイツにおける経営会計の現状と動向について、最新の理論について考察している。特に、ドイツの高名な原価計算学者、G.Munzel, P.Riebel, および G.Lassmann の理論について詳しく研究している。ドイツ留学中の著者と、これらドイツ人学者との交流も語られており、興味深い内容となっている。

第4章では、アメリカにおける原価計算の展開について、歴史的、理論的な視点から考察している。本章では、アメリカの経営会計の歴史と理論についてコンパクトにまとめられている。

第5章では、日本における経営会計の展開について、歴史的、理論的な視点から考察している。本章では、日本での管理会計の研究について、中心的な研究者、機関、学会について詳細に記述しており、日本の会計学発展の歴史という観点から

も興味深い内容となっている。

第6章では、イギリス、フランス、中国、その他の諸国（カナダ、オーストラリア、韓国）における経営会計の特徴について、歴史的、理論的な視点から考察している。イギリス、フランス、中国、カナダ、オーストラリア、韓国の経営会計についての研究は、国際比較経営という視点でも注目される。

終章では、ドイツ、アメリカ、日本における経営会計について、歴史、社会、企業経営などの特徴を加えながら、経営会計比較を行っている。終章では、国際比較で各国の経営会計の特徴についてコンパクトにまとめられている。

以上のように、本書は、会計学の分野において比較的研究成果の乏しい国際会計比較という分野で、ドイツ、アメリカ、日本、カナダ、オーストラリア、韓国との経営会計を理論的、歴史的に比較しており、極めて独創性の高い著書となっている。